

# 宋代江南市鎮社会の構造

董媛

大阪公立大学文学研究科 哲学歴史学専攻 東洋史学専修 博士後期課程3年

## 研究背景

### ①江南市鎮に関する研究

- これまでの研究：明清時代に注目。
- 問題点：江南市鎮の前駆的な存在である宋代（960年～1279年）市鎮の考察は不十分。

### ②宋代における江南市鎮の研究

- これまでの研究：マクロな視点に偏っていた。
- 問題点：江南市鎮の個別事例の考察は少ない。

### ③研究目的・方法

歴史地理学の視点を踏まえ、「時間」と「空間」によって、宋代の江南市鎮を類型化した。そこから代表的な三つの市鎮を個別事例として取り上げ、文献史料の分析とフィールドワークを組み合わせる研究方法を活用しながら、宋代江南市鎮の社会構造を解明することを目的とする。

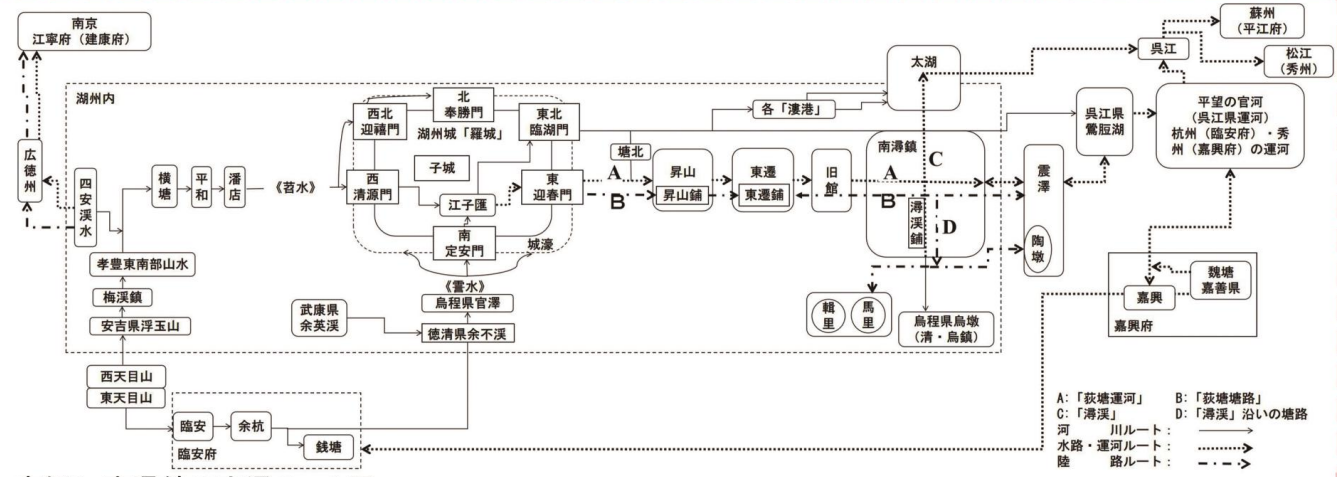
## 研究対象(個別事例)

- ・事例1、南潯鎮：南宋末年から設置。運河沿い。
- ・事例2、青龍鎮：宋代以前から設置。海沿い。
- ・事例3、新市鎮：北宋から設置。内河沿い。



## 使用した史料

- ①鎮志、県志、府志などの地方志
- ②『宋史』などの官撰史料
- ③文集、筆記、族譜、墓誌銘などの史料



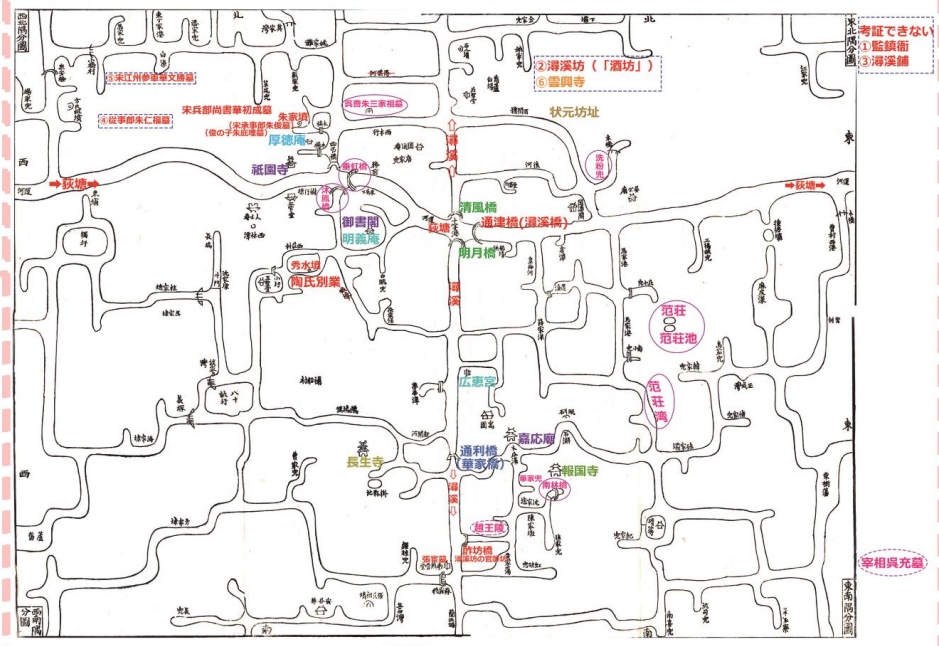
事例1、南潯鎮の交通ルート図

## 研究内容

- ①史料や調査を通じて、宋代の交通ルート図と地図を復元し、空間構造の特徴を解明した。
- ②史料や調査を通じて、鎮内の階層やネットワークを解明した。

## 結論

- ①空間構造：鎮の空間には複数の機能が融合し、複合的空間を形成していた。建築物は川沿いに分散して、分布しており、明清時代の鎮のような一体化しておらず、また官紳区、教育区、寺廟区といった機能区も形成されていない。
- ②社会構造：鎮内の有力者・氏族は、鎮の様々な建設や寄付の行為を通じて、鎮に貢献し自らの影響力を誇示した。婚姻関係・同郷関係など関係を通じて鎮内で複層的なネットワークを築いた。



事例2、南潯鎮の地図

今後の課題 →流通の様相と有力者の移住を考察しながら、江南市鎮の空間・社会構造を再構築する。